

# 2019年度 環境経営レポート

(対象期間：2019年1月～12月)



認証番号 0000724

# YASDA

YASDA PRECISION TOOLS K.K.

## 目次

### ■計画の策定(Plan)

1	組織の概要	1
2	対象範囲	1
3	環境経営方針	2
4	環境経営目標	3
5	環境経営計画及び達成状況	5

### ■計画の実施(Do)

6	環境経営計画に基づき実施した取り組み内容	6
---	----------------------	---

### ■取組状況の確認及び評価(Check)

7	環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価（総量）と 次年度の取り組み	7
8	環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価（原単位）と 次年度の取り組み	9
9	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果、並びに違反、訴訟等の有無	13

### ■全体の評価と見直し(Act)

10	代表者による全体の評価と見直し・指示	14
----	--------------------	----

## 1 組織の概要

### (1) 名称及び代表者

安田工業株式会社

代表取締役 安田 拓人

### (2) 所在地

本 社 岡山県浅口郡里庄町浜中 1160

第 二 工 場 岡山県浅口郡里庄町浜中 1128-3

第 三 工 場 岡山県浅口郡里庄町新庄 5899

仙 台 営 業 所 仙台市青葉区上杉 5-1-1

関 東 営 業 所 さいたま市北区土呂町 1-12-2

名 古 屋 営 業 所 名古屋市東区東桜 2-9-34

長 野 営 業 所 松本市城西 1-2-19

大 阪 営 業 所 大阪市北区梅田 1-3-1-1000

### (3) 環境管理責任者・環境管理事務局

環境管理責任者：取締役生産本部長 田邊 洋始 TEL：0865-64-2511

環境管理事務局：生産本部生産技術課主任 東田 公一 TEL：0865-64-4690

### (4) 事業の概要

工作機械製造販売

産業機械製造

### (5) 事業規模

	本社	第二工場	第三工場	営業所
従業員数	275 名	30 名	59 名	27 名
延べ床面積	21,267 ㎡	7,069 ㎡	7,759 ㎡	411 ㎡

### (6) 事業年度

4 月～3 月

## 2 対象範囲

登録組織名：安田工業株式会社

活動対象範囲：本社工場

第二工場

第三工場

本社以外の営業所（仙台、関東、名古屋、長野、大阪）

活 動：工作機械の開発・設計・製造・販売・サービス

産業機械の製造

### 3 環境経営方針

#### (1) 環境理念

安田工業株式会社は、地球環境を健全な状態で次世代へ引き継ぐために、ものづくりの全ての過程において、資源エネルギーの消費、発生する廃棄物、特定化学物質の使用を削減することに企業全体で努めてまいります。

自社製品についても、高品質、高機能、高性能かつ地球環境に優しい製品を開発・提供することに努め、お客様に高効率で高品位な生産を行っていただくことにより、二酸化炭素の排出量や廃棄物の削減につなげていきます。

常に環境への影響に配慮した「ものづくり」を推奨していくことで、社会から地域から信頼される企業を目指していきます。

地球環境問題を経営上の重要な課題の一つとして認識し、自らの製品・サービスを含む全ての事業活動のあらゆる面を通じて、環境マネジメントシステムの継続的改善を図り、環境と調和した維持可能な循環型社会を目指した活動を自主的・積極的に推進していき、社会の発展に貢献していきます。

#### (2) 活動指針

1. 環境関連法規制を遵守していきます
2. 生産効率の向上と省エネルギーを推進して、二酸化炭素排出量の削減に努めます
3. 製品品質の向上と最適な生産を推進して、廃棄物の削減に努めます
4. 再資源化を推進して省資源に努めます
5. 特定化学物質の使用量を把握して削減に努めます
6. 環境を配慮した製品の開発に努め、顧客に高効率で高品位な生産を行っていただける機械とソリューションを提供していきます
7. 環境マネジメントシステムの継続的改善を行います
8. 環境への取組みを全従業員に周知します
9. 環境経営レポートを作成して公表します

制定日：2019年1月11日

代表取締役

安田 拓人

#### 4 環境経営目標

##### (1) 本社工場、第二工場、第三工場

\* 原単位：売上高

二酸化炭素排出係数：0.677kg-CO<sub>2</sub>/kWh（中国電力2017年調整後係数）

・二酸化炭素排出量の原単位目標

		2011年 実績	2018年 目標	2019年 目標	2020年 目標	2024年 中期目標
電力	kg-CO <sub>2</sub> /億円	62,784	68,113	67,433	66,758	64,128
ガソリン・軽油		552	515	509	504	484
二酸化炭素排出量 合計		63,336	68,628	67,942	67,262	64,612

・廃棄物の原単位目標

		2009年 実績	2018年 目標	2019年 目標	2020年 目標	2024年 中期目標
一般廃棄物 (焼却量+埋立量)	トン	0.175	0.160	0.158	0.157	0.151
産業廃棄物 (焼却量+埋立量)	/億円	0.264	0.241	0.239	0.236	0.227

・廃棄物の再資源化率目標

		2011年 実績	2018年 目標	2019年 目標	2020年 目標	2024年 中期目標
再資源化率	%	93.5	95.0	95.0	95.0	95.0

・水使用量の原単位目標

		2009年 実績	2018年 目標	2019年 目標	2020年 目標	2024年 中期目標
水使用量	m <sup>3</sup> /億円	138	126	125	124	119

・化学物質使用量削減、自らが生産する製品の目標

化学物質使用量削減については使用量の制限が自ら行えない、また自らが生産する製品に関しては数量化し辛いいため目標値を設定せず、環境活動計画の中で管理し取り組んでいく

(2) 本社以外の営業所

\* 原単位：電力・廃棄物は営業所の人数

ガソリンは車を運転する人数

二酸化炭素排出係数：0.677kg-CO<sub>2</sub>/kWh（中国電力 2017 年調整後係数）

・二酸化炭素排出量の原単位目標

		2014 年 実績	2018 年 目標	2019 年 目標	2020 年 目標	2024 年 中期目標
電力	Kg /人数	1,245	1,196	1,184	1,173	1,126
ガソリン・軽油		5,902	5,670	5,613	5,556	5,338
二酸化炭素排出量 合計		7,147	6,866	6,797	6,729	6,464

・廃棄物の原単位目標

		2015 年 実績	2018 年 目標	2019 年 目標	2020 年 目標	2024 年 中期目標
一般廃棄物 (焼却量+埋立量)	Kg /人数	56.9	55.2	54.7	54.1	52.0

・節水の原単位の目標

営業所の場合は、水道料金がオフィスの賃貸料に含まれている場合が多く、そのため使用量を把握することが不可能である

よって、節水の項目での目標値を持つ事が出来ない

## 5 環境経営計画及び達成状況

### (1) 二酸化炭素排出量の削減

計画	担当部署	実施時期	達成状況
①作業効率の向上 ・生産及び業務を改善して効率を上げる	全部署	中計計画	○
① 空調 ・設定温度の徹底（夏 27℃、冬 22℃）	総務、技術部 製造部、産機部	随時	○
・サービス倉庫・事務所の空調更新		3月	○
・板金工場空調更新	生産技術課	3月	○
・現場事務所3階空調更新		3月	○
② 照明 ・不要時の消灯、部分照明	全部署	随時	○
・第三工場LED化	生産技術課	3月	○
③ コンプレッサ ・エアー漏れの処置	製造部	随時	△
④ 動力 ・使用していない設備機械・生産機械の電源を切る	機械課、組立課	随時	○
・0A機器の省エネモード設定	全部署	随時	○

### (2) 廃棄物排出量の削減

計画	担当部署	実施時期	達成状況
①不良品の削減 ・不良を削減して廃棄物を減らす	技術部、製造部	業務推進計画	△
②分別の徹底 ・分別ボックスを設置して再資源化率を上げる	全部署	随時	○
・古紙のリサイクル化		随時	○
③コピー用紙の削減 ・裏紙利用、両面印刷	全部署	随時	○
・集約コピー			△

(3) 化学物質使用量の削減

計画	担当部署	実施時期	達成状況
①使用量の把握 ・使用量を把握して管理する	生産技術課	毎月	○
②代替品の採用 ・代替品により化学物質使用量を減らす	生産技術課	随時	△

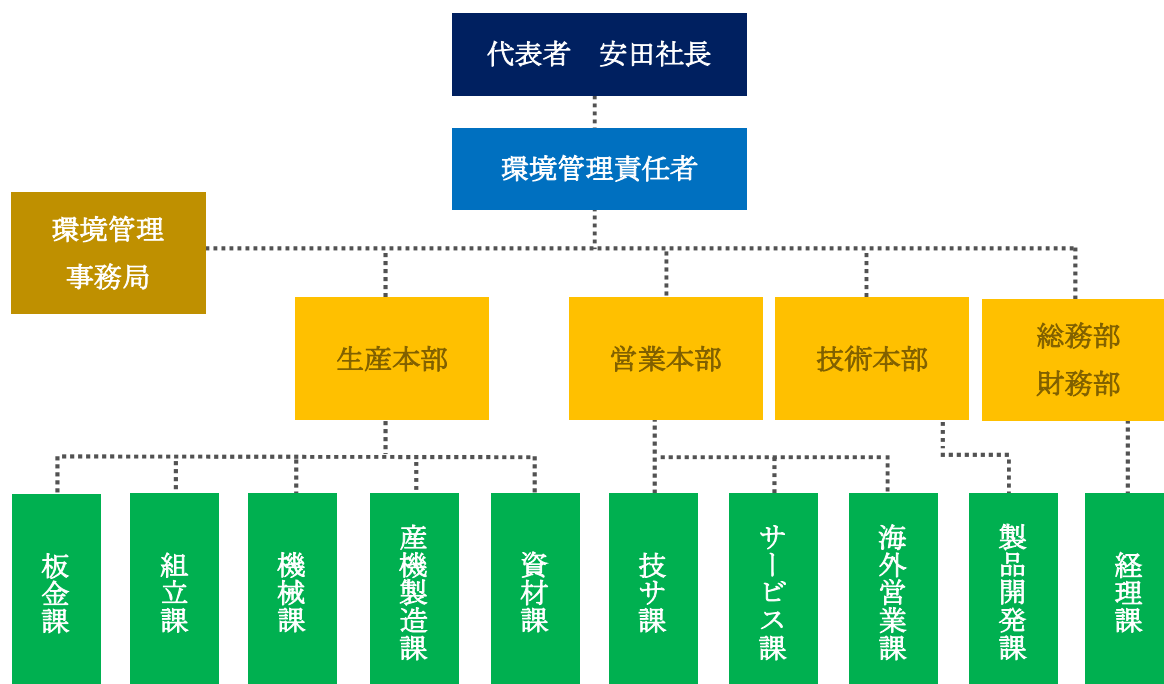
(4) 製品及びサービス

計画	担当部署	実施時期	達成状況
①製品開発 ・高度化、高品位化、長寿命化、小型化、軽量化 部品点数最小化を考慮	技術部	随時	○ ○
②サービス作業 ・正確かつ効率の良い作業	サービス課	随時	○

6 環境経営計画に基づき実施した取り組み内容

(1) 実施体制

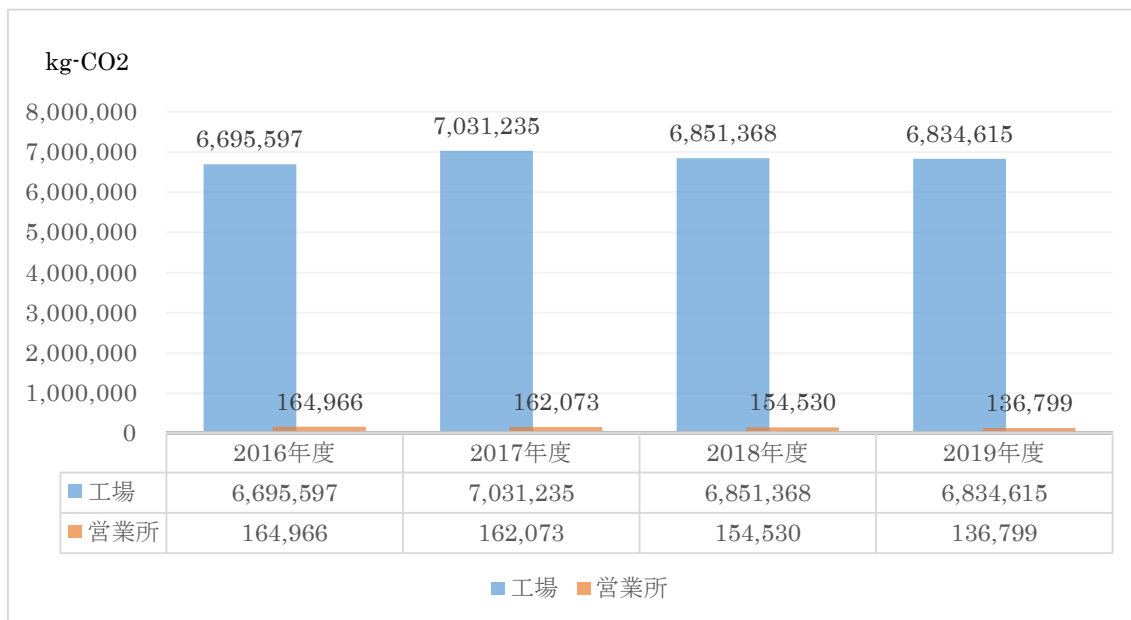
環境委員会組織図





7 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価（総量）と次年度の取り組み

(1) 二酸化炭素総排出量



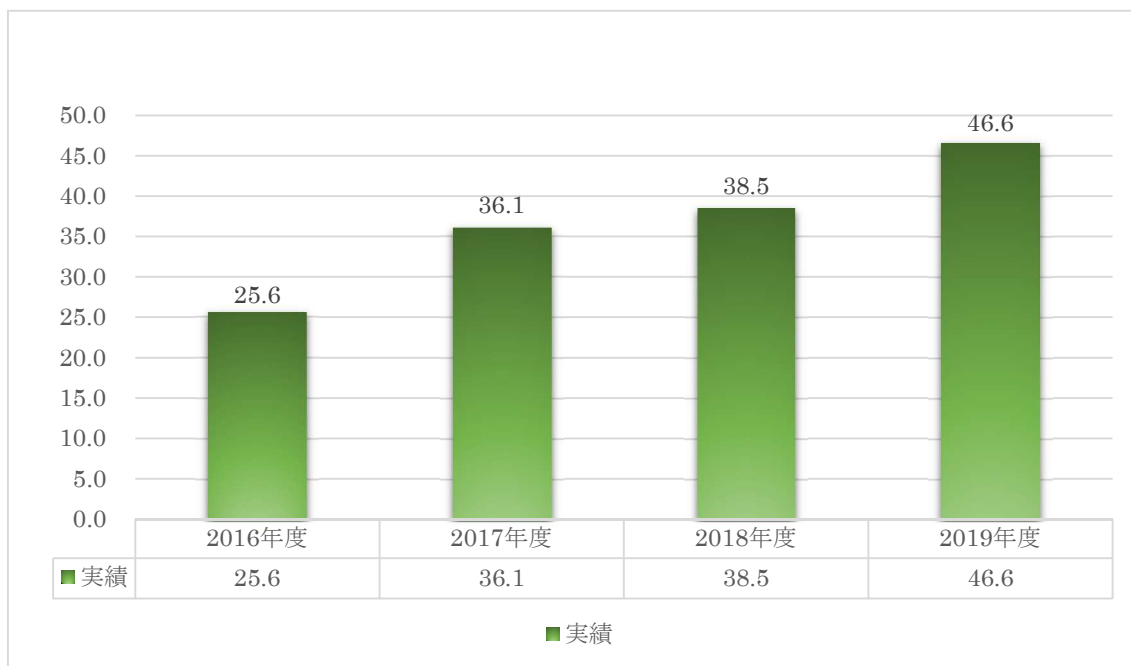
二酸化炭素排出量は 2017 年度から操業度が上がっているにもかかわらず徐々に削減できている。空調や照明など大掛かりにハード面の更新をした結果と判断している。次年度は運用面での強化に取り組んでいく。

(2) 一般廃棄物（焼却ごみ+埋立ゴミ）総排出量



2019 年度に増加している。分別の再徹底に取り組んでいく。

(3) 産業廃棄物（焼却ごみ+埋立ゴミ）総排出量



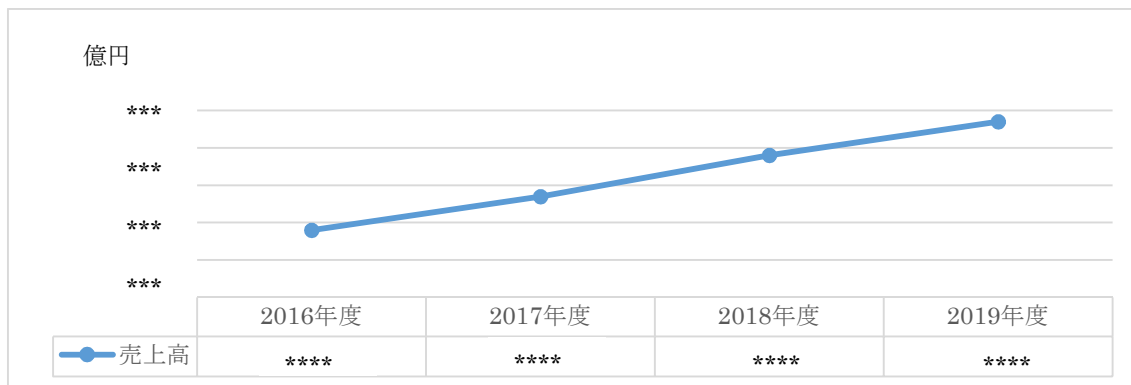
2019年度の操業度は2016年度比の20%増加、排出量は80%増加している。

(4) 水使用量の総量



8 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価（原単位）と次年度の取り組み

(1) 工場原単位：売上高

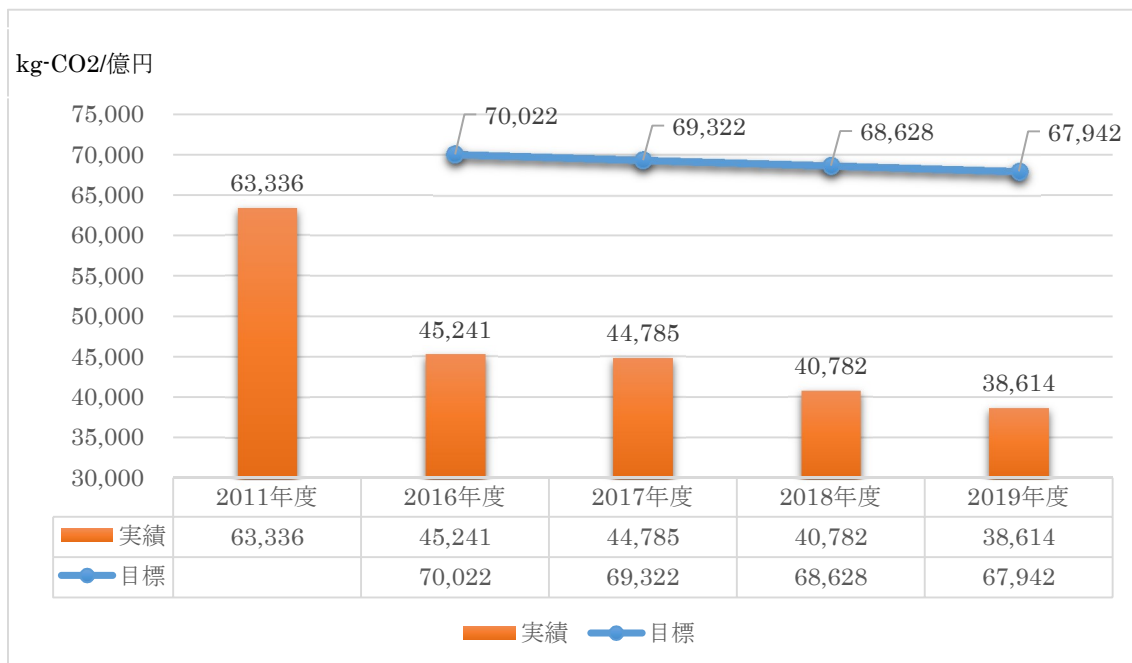


営業所原単位：営業所の人数（電力使用量と廃棄物排出量）  
車を運転する人数（ガソリン使用量）

		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
電力・廃棄物	営業所の人数	27	28	31	27
ガソリン	車を運転する人数	23	24	27	23

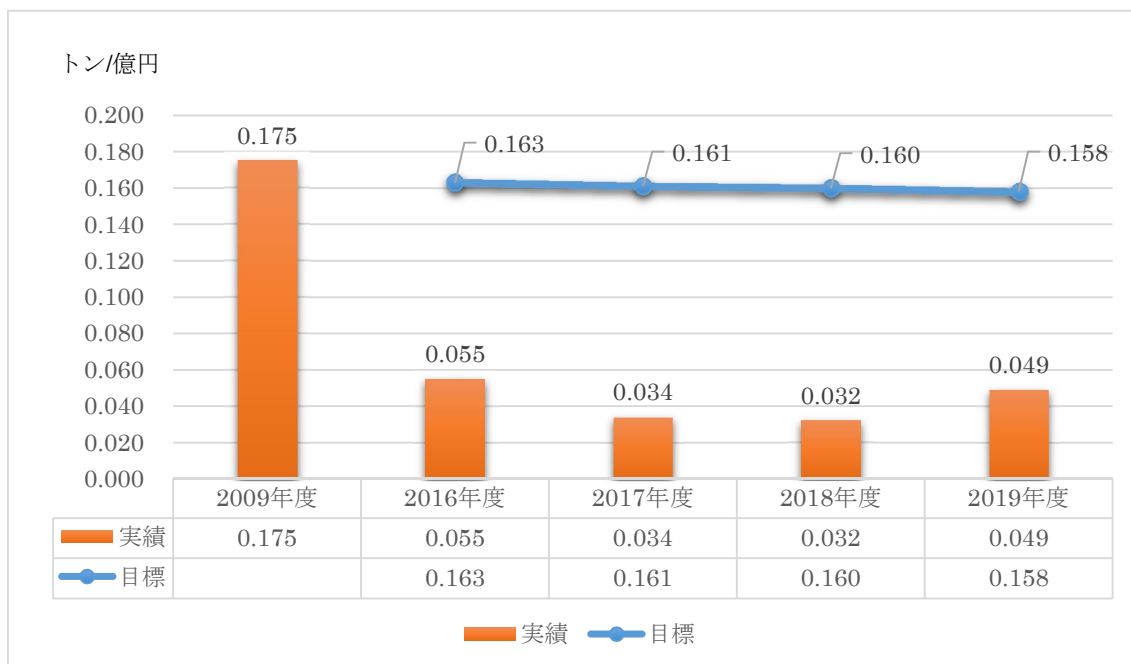
(2) 二酸化炭素排出量の原単位実績

二酸化炭素排出係数：0.677kg-CO<sub>2</sub>/kWh（中国電力2017年調整後係数）



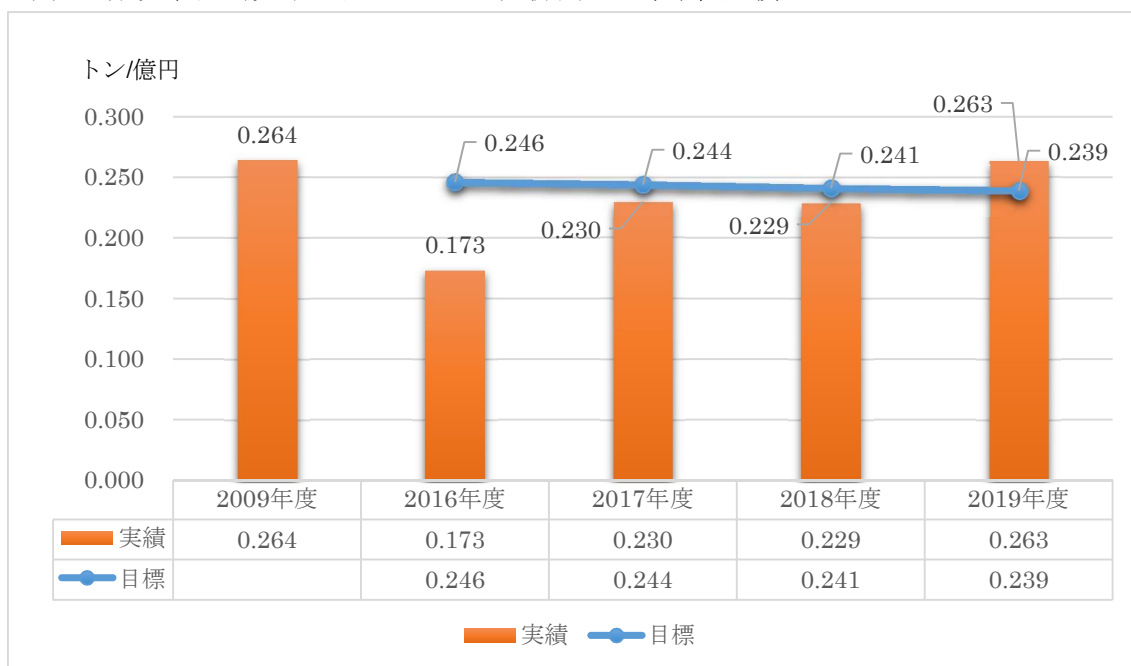
計画通りの活動ができた。この状態を維持していき、運用面ではさらに取り組みを強化していく。

(3) 一般廃棄物（焼却ごみ+埋立ゴミ）排出量の原単位実績



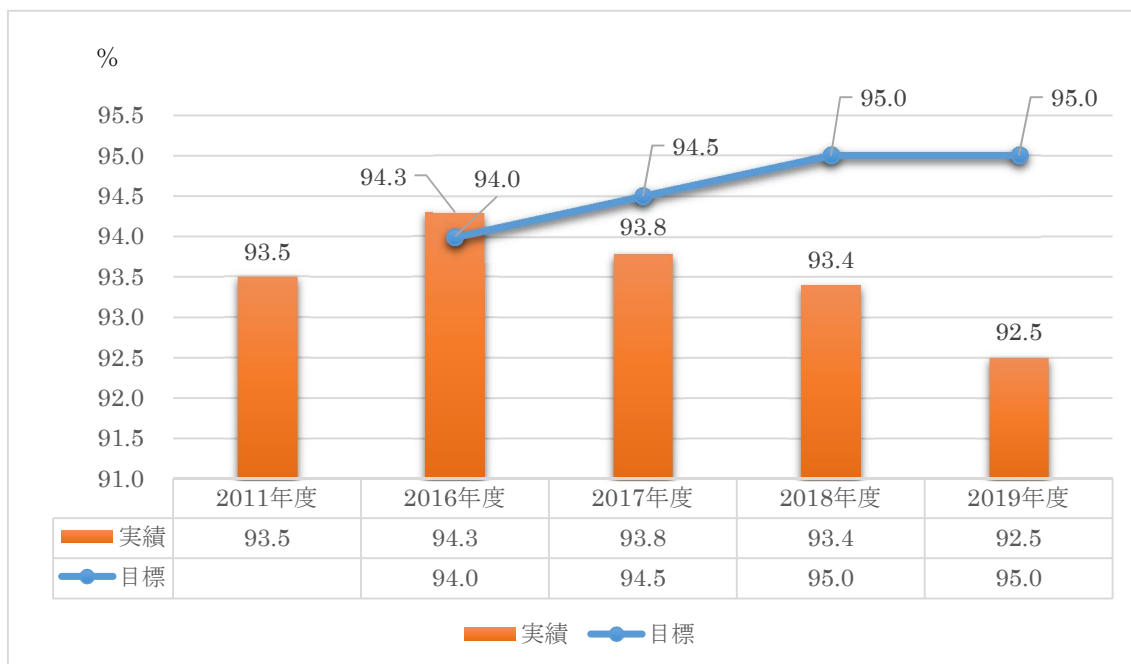
計画通りの活動ができた。この状態を維持していく。

(4) 産業廃棄物（焼却ごみ+埋立ゴミ）排出量の原単位実績



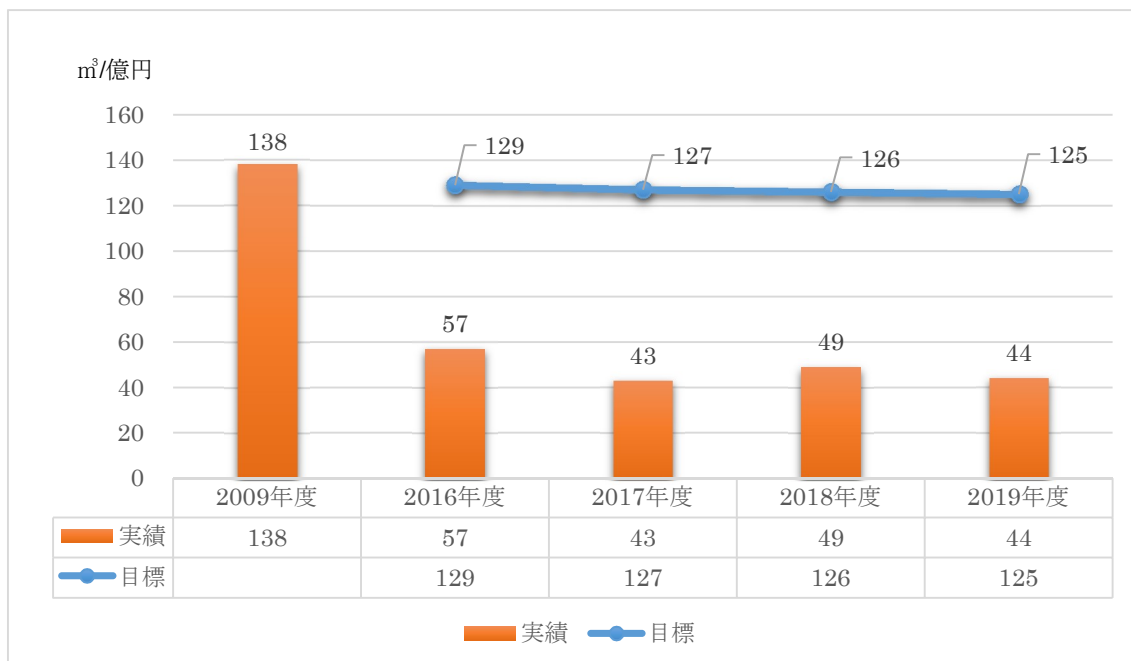
2017年度から多くの照明器具を廃棄したため数値が悪化しており、目標を達成することができなかった。照明の更新はほぼ終わったため様子を見たい。今後とも分別の徹底を行っていく。

(5) 再資源化率の実績



産業廃棄物（焼却ごみ+埋立ゴミ）の量が増えたことにより目標未達となった。  
今後とも分別の徹底を行っていく。

(6) 水使用量の原単位実績



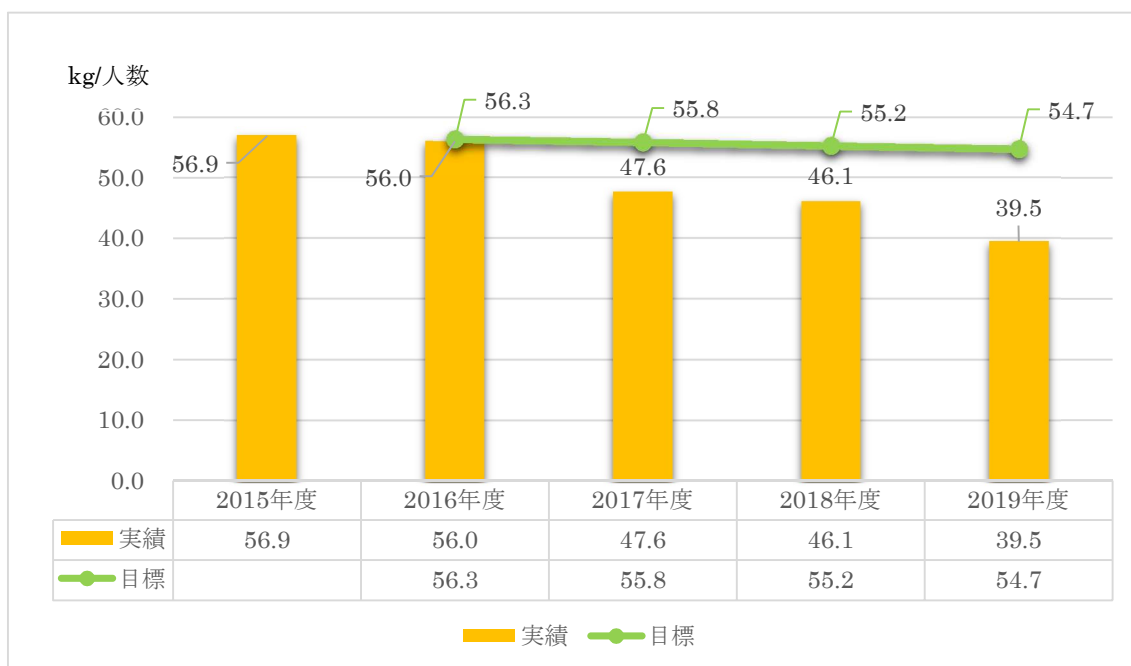
2016年度に漏水処理をしたため数値が改善されている。上方修正を検討していく。

(7) 営業所の二酸化炭素排出量の原単位実績



計画通りの活動ができた。この状態を維持していく。

(8) 営業所の廃棄物排出量の原単位実績



計画通りの活動ができた。この状態を維持していく。

9 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価結果、並びに違反、訴訟などの有無

法規制等の名称	要求事項	遵守評価結果
廃棄物処理法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集運搬・処理業者の許可の確認、契約</li> <li>・保管場所の掲示、飛散・浸透防止、衛生管理</li> <li>・マニフェストの交付・管理</li> <li>・産業廃棄物管理票交付等状況報告</li> </ul>	適合
PRTR 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学物質使用量の把握</li> </ul>	適合
エネルギー使用合理化に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー使用量の把握・管理、省エネ</li> <li>・管理標準の整備</li> <li>・定期報告書・中長期計画書の提出</li> </ul>	適合
消防法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防設備、施設の点検</li> </ul>	適合
岡山県環境への負荷低減に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温室効果ガス排出削減報告書等の提出</li> </ul>	適合
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器の点検</li> <li>・漏洩防止の措置、修理しないままの充填禁止</li> <li>・点検等の履歴の保存</li> </ul>	適合
騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定施設設置届出・使用届出の提出</li> <li>・規制基準の遵守</li> </ul>	適合
振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定施設設置届出・使用届出の提出</li> <li>・規制基準の遵守</li> </ul>	適合
労働安全衛生法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学物質のリスクアセスメントの実施</li> </ul>	適合

上記表中の環境関連法規制等を遵守しています。尚、違反、訴訟等も過去3年間ありません。

## 10 代表者による全体の評価と見直し・指示

2020.2.4

代表取締役 安田 拓人

日本工作機械工業会が発表した2019年度の受注状況は1兆2千億円と、非常に好況であった前年度の1兆8千億円と比べて大きく下振れした。米中貿易摩擦の長期化、先鋭化を背景に設備投資を控える動きを反映した。

当社においては、原単位評価に用いている売上高は、受注残等の関係により前年比5%増加となり、昨年同様に繁盛な操業となった。

エコアクション21のガイドラインが2009年版から2017年版に改訂され、当社においては2019年度から新しいガイドラインに沿って取り組みを行ってきた。

それに伴い環境方針を環境経営方針と改め、内容も一部改訂した。マシニングセンターを作る過程だけにおいて環境活動をするのではなく、お客様に機械をご使用いただく中でも環境を意識した製品の提供をしていくことを環境経営方針に織り込んだ。

環境経営計画については、計画通りの取り組みができた。その効果もあり、売上高が増加したにも関わらず二酸化炭素排出量の削減につながったと判断している。これは、この数年間で大掛かりに空調機や照明設備などのエネルギー消費機器の更新を行ってきた結果とも言える。しかしながら今後は運用面における省エネに今以上の取り組みをしていく必要がある。

また、中計や業務推進計画の施策を実施していくことにより、作業効率を向上することで二酸化炭素排出量を削減させる、不良を無くすことで廃棄物を減らしていくことを継続していく。

廃棄物については、産業廃棄物が目標達成できておらず、直近の3年間で数値が悪化している。多くの照明器具を廃棄したためであると認識しているが、さらに分別を徹底して改善するように努めていく。

水使用量については、漏水対応などをしたため目標値を大きくクリアしており、これについては目標を上方修正する必要があると考えている。

営業所においても目標を達成しており、この状態を維持管理していく。

実施体制である環境委員会の構成の変更は必要ない。但し異動等による人員の交代は適宜行う。

持続可能な循環型社会の構築及び地域社会に貢献していくために、また会社の社会的責任を果たすこと、地域社会からの信頼を継続して得られることを目的に、今後も全事業活動を通じて環境活動を推進していく。